2026年10月29日（木）

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
10:10～11:10	1	会長講演		至誠一貫，まことのみんなの幸いのために ―挑み，超え，調えるリハビリテーション医学―	川手　信行	○
11:20～12:20	1	特別講演1		アルツハイマー病　― 病態理解から読み解く新しい医療の可能性 ―	小野　賢二郎	○
11:20～12:20	2	教育講演1		ヒトはなぜ合理的合目的に動けるのか	佐々木　信幸	○
11:20～12:20	3	教育講演2		Hospitalization-Associated Disabilityの予防とリハビリテーション医療	高橋　哲也	○
12:30～13:30	1	ランチョンセミナー1	慢性期外傷性脳損傷への挑戦 ― 再生医療がもたらす新たな可能性 ―	外傷性脳損傷に挑む新たな細胞治療薬バンデフィテムセル：その作用機序とエビデンス構築の歩み	金　恭平	○
			慢性期外傷性脳損傷への挑戦 ― 再生医療がもたらす新たな可能性 ―	再生医療とのシナジーが期待されるニューロモデュレーション技術のトピックス	川上　途行	
13:40 ～14:40	1	文化講演1		喪失による傷つきからの回復に必要なかかわり ～Safety/challenge/Hope～	副島　賢和	○
13:40～14:40	6	挑・超　あすなろ講演1		ニューロリハビリテーションのトピックス：小児領域の展開	川上　途行	○
13:40～14:40	7	医師＆専門職　調うセミナー1		眼球運動障害のリハビリテーション治療	渡部　喬之	○
13:40～15:10	2	挑・超・調　企画シンポジウム2	サルコペニア・フレイルへの挑・超・調	フレイル・サルコペニアの病態と疫学	小川　純人	○
				骨格筋の可塑性から描くサルコペニア・フレイルのグランドデザイン ― 運動・栄養介入から社会実装へ ―	町田　修一	
				口腔機能管理とリハビリテーション医療の接続	古屋　純一	
				サルコペニア・フレイル患者の機能回復を支える栄養管理	宇野　千晴	
				運動でロコモ・フレイル・サルコペニアは防げるか	沢谷　洋平	
13:40～15:10	4	挑・超・調　企画シンポジウム5	重症患者に対するリハビリテーション診療の挑・超・調	リハビリテーション科専門医による高度救命救急センターにおける包括的急性期脳卒中診療	山内　利宏	○
				意識障害患者のリハビリテーション診療	新見　昌央	
				PICSのリハビリテーション診療 ー早期離床から退院後支援までをどうつなぐかー	竹原　慧	
				超急性期から生活期までを貫くリハビリテーション診療	幸田　剣	
13:40～15:10	3	合同シンポジウム（パラスポーツ委員会）1	ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会を支えたリハビリテーション支援の実際と未来	ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会までの競技活動と今後	新田　佳浩	○
				ミラノ・コルティナ2026冬季パラスポーツ国際競技大会における医務活動とパラスポーツにおける医学的支援について	小林　章郎	
				冬季競技における機器開発の歴史　選手の発掘・育成に向けた普及活動	辻村　和見	
14:50～15:50	1	特別講演2	投げ続けるための医療 ― スポーツ障害の予防と健康管理を再考する ―	投げ続けるために肘を守る～学童からプロまで野球肘の現状と課題～	富田　一誠	○
				投球障害肩に対する理学療法	千葉　慎一	
14:50～15:50	6	挑・超　あすなろ講演2	リハビリテーション科医としての専門性とは	回復期における痙縮治療への挑戦 ―SMDの視点から考えるチーム医療―	杉山　みづき	○
14:50～15:50	7	医師＆専門職　調うセミナー2		発音が気になる子どもに出会ったとき ―多職種で共有したいチェックポイント―	武井　良子	○
15:20～16:20	5	スイーツセミナー1		姿勢と運動から考える小児リハビリテーションの新展開 ―脳性まひ児とダウン症のある子どもの生活を支える実践―	真野　英寿	○
15:25～16:55	2	挑・超・調　企画シンポジウム（日本スティミュレーションセラピー学会共同）3	脳卒中後遺症に対するスティミュレーションセラピーの挑・超・調	当院における脳卒中後上肢麻痺に対するStimulation Therapy	漆谷　直樹	○
				脳卒中後嚥下障害に対するStimulation Therapy：神経筋電気刺激（NMES）の可能性	小林　健太郎	
				失語症に対するスティミュレーションセラピー	小原　健輔	
				脳卒中後歩行障害に対するスティミュレーションセラピー	久保田　雅史	
15:25～16:55	4	合同シンポジウム（日本難病リハビリテーション研究会）2	神経難病における在宅リハビリテーションの現在とみらい-地域実践の深化に向けて-	ALS患者の地域在宅移行を支える取り組み ～専門医療機関から地域へ何を伝えるか～	工藤　早栄子	○
				「食べることは生きること」を支える 難病・訪問リハビリテーション ― ICF×主観的次元・車窓モデル―	川俣　悠平	
				居宅介護支援事業所へのアンケート結果からみる在宅神経難病者へのリハビリテーション治療の課題	中馬　孝容	
15:40～16:40	3	教育講演3		がん治療と生活の両立を支えるリハビリテーション診療の専門性	辻　哲也	○
16:00～17:00	1	特別講演3		0からの軌跡 ― 生活を支える医療への挑・超・調	水間　正澄	○
16:00～17:00	6	挑・超　あすなろ講演3		臨床×研究×教育の三位一体の活動に挑む！	蜂須賀　明子	○
16:00～17:00	7	医師＆専門職　調うセミナー3		ICUにおける作業療法の役割と実践：生活期を見据えた包括的支援	駒場　一貴	○

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
17:10～18:10	6	挑・超　あすなろ講演4		子どもの「できる」を広げ、領域を超えて支援するリハビリテーション医学	藤原　清香	○
17:10～18:10	7	医師＆専門職　調うセミナー4		サルコペニア・フレイルを“診る”・“支える”	山田　実	○
17:10～18:40	1	挑・超・調　企画シンポジウム（CORABOSS共同）1	脳卒中歩行再建　現在・過去・未来　―先人たちが歩んだ道と新たな挑戦 ―	歩行再建で私が歩んだ道 －長下肢装具後方介助歩行訓練の誕生と未来への提言－	吉尾　雅春	○
				脳卒中歩行再建のための歩行分析の過去・現在・未来	山本　澄子	
				脳卒中歩行再建　～痙縮治療・SMD対策の過去・現在・未来～	勝谷　将史	
17:10～18:40	2	挑・超・調　企画シンポジウム4	回復期リハビリテーション医療の四半世紀の挑・超・調	回復期リハビリテーション医療における生活再建　－医師の立場から－	岡本　隆嗣	○
				理学療法士の視点から	松田　徹	
				回復期リハビリテーション医療を管理する作業療法士の立場として	川野　将広	
				回復期リハビリテーション病棟における言語聴覚士の役割と課題	井上　典子	
				回復期リハビリテーション病棟のソーシャルワーカーの立場から	玉井　智	
17:10～18:40	4	合同シンポジウム（全国リハビリテーション学校協会）3	セラピスト教育の新たな展開 ― 卒前・卒後の連続した教育―	卒前卒後のシームレスな教育について	渡部　喬之	○
				慈恵医大レジデント理学療法士・作業療法士制度の役割と期待	中山　恭秀	
				コンピテンシー基盤型教育からみたセラピストの卒前教育	木村　大輔	
				言語聴覚士の卒前・卒後教育	深浦　順一	
				作業療法士養成校における総合実習前後のOSCE	五味　幸寛	
17:10～18:40	3	男女共同参画シンポジウム	リハビリテーション医療におけるキャリア形成と専門性の再考 ―多様な働き方と役割選択の構造に着目して―	医療観とキャリア志向に関するアンケート調査―中間報告―	杉山　みづき	○
				迷いながら育てられたキャリア ―地域で育ち、家族に支えられ、人を育てる側へ―	梅本　安則	
				リハビリテーション科医として幸せな人生を歩む ～後期研修医の視点から～	関根　希和子	
				リハビリテーション科医に必要なキャリアとしての急性期・回復期・生活期	大高　恵莉	

2026年10月30日（金）

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
8:30～10:00	2	挑・超・調　企画シンポジウム6	リハビリテーション科開業の挑・超・調	リハビリテーション科医としての開業 ー私の場合ー外来に特化したモデル	白石　純一郎	○
				リハビリテーション科医が町医者を継承開業して外来・訪問・通所リハビリテーションを営む	沖井　明	
				リハビリテーション科医師による居場所づくり ～医療的ケア児・重症心身障害児に向けて～	山下　愛茜	
				地域に根ざした外来・訪問・通所の三位一体モデルの実践：山王リハビリ・クリニックの取り組み	森　逸平	
8:30～10:00	3	挑・超・調　企画シンポジウム10	整形外科領域のリハビリテーション医療の未来戦略への挑・超・調	脊髄損傷に対するリハビリテーション治療の未来戦略	粕川　雄司	○
				骨粗鬆症の未来戦略と運動療法	青木　隆明	
				上肢・手指外傷の未来戦略	尼子　雅敏	
				股関節疾患に対する未来戦略	坂井　孝司	
8:30～10:30	7	医師＆専門職　調うシンポジウム1	摂食嚥下多職種チームは，リハビリテーション科医に何を望んでいるのか ―「指示する医師」から「ともに調える医師」へ―	摂食嚥下障害のリハビリテーション医療において言語聴覚士がリハビリテーション科医に求める役割	畠山　恵	○
				食べることに挑む多職種チームの中での看護師	丹藤　淳	
				摂食嚥下支援をともに調える ―急性期から生活期をつなぐ管理栄養士の視点―	熊谷　直子	
				生活につながる口腔機能を支えるためにリハビリテーション科医に期待すること―歯科医師の立場から―	齋藤　真由	
8:30～9:30	1	教育講演4		リハビリテーション診療におけるDX	大高　洋平	×
8:30～9:30	4	教育講演5	上肢機能回復への挑・超ーVRとロボットが拓くリハビリテーションの新戦略ー	上肢機能回復への挑・超 ーVRとロボットが拓くリハビリテーション治療の新戦略ー	内山　侑紀	○
8:30～9:30	5	教育講演12		心不全診療を支える心臓リハビリテーション ―急性期から長期予後まで―	礒　良崇	○
8:30～9:30	6	挑・超　あすなろ講演5		嚥下機能の定量化への挑戦	新井　伸征 山本　五弥子	○
9:40～10:40	1	特別講演4		新地域医療構想と地域医療の未来 -医療提供体制はどう変わるのか-	西嶋　康浩	○
9:40～10:40	4	教育講演6		運動器腫瘍に対する機能再建とリハビリテーション戦略 ― 周術期 から生活期まで ―	城戸　顕	○
9:40～10:40	5	教育講演13		脳卒中急性期のリハビリテーション治療	梅本　安則	○
9:40～10:40	6	挑・超　あすなろ講演6		先進的なニューロリハビリテーション治療への挑戦	谷　真美	○
10:10～11:40	2	挑・超・調　企画シンポジウム7	栄養とリハビリテーション治療の挑・超・調	リハビリテーション効果を最大化する栄養マネジメント：医師が導く多職種連携の「調和」	藤原　大	○
				食べない、痩せる、そんな時どうする？低栄養を乗り越える栄養介入戦略	上島　順子	
				リハビリテーションアプローチの効果を支える栄養サポートへの挑戦	最上谷　拓磨	
				薬からみる栄養と身体機能回復の調和	松崎　貴志	
10:10～11:40	3	合同シンポジウム（日本小児リハビリテーション医学会）4	生活期を生きる子どもと家族に、私たちはどう挑み、超え、調えるのか ― 次世代から考える小児リハビリテーション医療 ―	医療が生活期に挑む ― 重症児・医療的ケア児に対する継続的支援の最前線 ― 小児専門病院の立場から	真野　浩志	○
				成長発達を超えて支える小児リハビリテーション ― 移行期医療とライフステージ支援 ―	土岐　めぐみ	
				子どもの『生活』を調える作業療法の役割 ― 学校・家庭・地域をつなぐ支援 ―	竹中　佐江子	
				地域で育ち続ける子どもを支える ― 多職種連携と生活期支援モデルの実践 ―	杉山　智子	
10:50～11:50	1	文化講演2		AIは「その人らしさ」を支えられるのか ― Deepfake Voiceを起点としたリハビリテーション支援の可能性 ―	CANCEMI GIORGIO	○
10:50～11:50	4	教育講演7		高次脳機能障害者支援法がもたらす未来	渡邉　修	○
10:50～11:50	5	教育講演14		痙性運動障害（SMD）への包括的治療戦略	長谷　公隆	○
10:50～11:50	7	医師＆専門職　調うセミナー6		体幹深部筋の機能評価と再教育	金岡　恒治	○
12:05～13:05	2	ランチョンセミナー2		遷延性意識障害患者のリハビリテーション医療 ―NASVA療護センターの役割と実績―	本田　千穂	○
12:05～13:05	2	ランチョンセミナー3		痙縮マネジメントを再考する ～下肢の用法・用量変更がもたらす臨床への変化～	重松　孝	×
12:05～13:05	4	ランチョンセミナー4		リハビリテーション診療における末梢磁気刺激	加賀谷　斉	○
12:05～13:05	5	ランチョンセミナー5		今こそやろう。心不全への心臓リハビリテーション	村田　誠	○
12:05～13:05	6	ランチョンセミナー6		リハビリテーション病院における運動器疾患治療の最前線	平泉　裕	○
13:15～14:15	1	特別講演5		脊髄損傷患者に対する新しい幹細胞製剤	本望　修	○
13:15～14:15	4	教育講演8	サルコペニアだけでは語れないフレイル―栄養・姿勢・Standing SADから考える新しい身体評価―	サルコペニアだけでは語れないフレイル ―栄養・姿勢・Standing SADから考える身体評価―	永井　隆士	○

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
13:15～14:15	5	教育講演15		パーキンソン病はどこまで改善するのか ―エビデンスで読み解くリハビリテーション医療の最前線―	服部　憲明	○
13:15～14:45	2	挑・超・調　企画シンポジウム8	生成AIが開くリハビリテーション医療の挑・超・調	生成AIがどこまでリハビリテーション医療の現場を変えうるか ―小さい意思決定から始める臨床活用―	海津　陽一	○
				生成AIを活用したリハビリテーション介入支援の可能性	澤村　彰吾	
				生成AIはどこまで進歩するのか	尾﨑　尚人	
				AIによる機能回復および活動性向上予測の可能性と課題	白坂　智英	
13:15～14:45	3	挑・超・調　企画シンポジウム（日本JRAT共同）11	東日本大震災から15年・災害リハビリテーション医療・支援の挑・超・調	東日本大震災からはじまったJRATの組織づくり概説とこれから	栗原　正紀	○
				熊本地震から学んだJRATの実践、そして、未来へ	田代　桂一	
				毎年の猛威：豪雨・台風による地域限定型災害での地域JRAT活動	菊地　尚久	
				令和6年 能登半島地震におけるJRAT支援活動と問題点について	松下　功	
13:15～15:15	7	医師＆専門職　調うシンポジウム2	少子化を追い風に変えるリハビリテーション専門職の力 ―PT・OT・ST・POの未来構想―	理学療法士の未来構想 -社会保障人材としての価値創造と持続可能なリハビリテーション医療の国家戦略化-	斉藤　秀之	○
				こども支援と認知症施策における今と未来構想 ～日本作業療法士協会会長の立場から～	山本　伸一	
				少子化を追い風に変えるリハビリテーション専門職の力 ―言語聴覚士の立場から考える未来構想―	内山　量史	
				少子化を追い風に変える義肢装具士の力	東江　由起夫	
14:20～15:20	1	特別講演6	障害のある人の社会参加と主体性 ―全介助事例に学ぶ『ポジティブスイッチ』と生活再構築のメカニズム―	障害のある人の社会参加―実臨床に役立てたい運動FIM13の事例に学ぶ主体性獲得と生活マネジメントの分析―	和田　真一	○
				1ミリも動けない絶望から「生活の経営者」へ ―社会参加と主体性を実現するポジティブスイッチの入れ方	澤邊　芳明	
14:25～15:25	4	教育講演9		その痛みは，なぜ続くのか ― 病態と修飾因子から考える痛みに対するリハビリテーション治療 ―	坂本　淳哉	○
14:25～15:25	5	教育講演16		生活期リハビリテーション医療における治療体系化の見える化 ― 何を，どこまで，どのように行うのか ―	三上　幸夫	○
15:00～16:00	2	スイーツセミナー2		大学病院における先端機器の幅広い活用 ～保険診療から自由診療まで～	川上　途行	○
				生体信号反応式運動機能改善装置による海外展開と保険外のリハビリテーション支援	安永　好宏	
15:00～16:00	3	スイーツセミナー3		『セラピスト＋α』で生き抜く次世代のキャリア戦略 ～自ら選ぶ多様な挑戦～	梅村　将成	○
					松本　泉	
					酒井　謙司	
					三浦　貴麿	
					髙野　富也	
					田中　麻奈美	
15:30～16:30	1	特別講演7		歩行を支える知の進化 ― 脳卒中下肢装具「これまで」と「これから」―	山本　澄子	○
15:35～16:35	4	教育講演10	嚥下・呼吸・口腔機能から考える誤嚥性肺炎予防 ―リハビリテーション医学の実践と多職種連携―	嚥下・呼吸・口腔機能から考える誤嚥性肺炎予防 ―リハビリテーション医学の実践と多職種連携―	海老原　覚	○
15:35～16:35	5	教育講演17		スポーツを通じた共生（インクルーシブ）社会の実現 ― 国内の取り組みと今後の展望 ―	牛尾　会	○
15:35～16:35	6	挑・超　あすなろ講演7		「挑」の文化が限界を「超」える ―自律を促す成長の場づくりの実践―	吉田　健太郎	○
15:35～16:35	7	医師＆専門職　調うセミナー7		前庭障害のリハビリテーション医療	加茂　智彦	○
16:15～17:45	2	挑・超・調　企画シンポジウム9	地域包括ケアシステムの挑・超・調	地域包括ケアは障害者・重度障害者を本当に包摂できているのか？	菊地　尚久	○
				都市型地域包括ケアにおける回復期リハビリテーション病棟の役割と課題	近藤　国嗣	
				地域包括ケアシステムはどのように機能しているか	堀田　富士子	
				高次脳機能障害に対する地域包括ケアシステム	駒井　由起子	
16:40～17:40	1	特別講演8		色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン	岡部　正隆	○
16:40～17:40	3	医師＆専門職　調うセミナー5		脳卒中歩行再建における運動の質（movement quality）	大畑　光司	○
16:45～17:45	4	教育講演11	ICFをリハビリテーション診療で活用するには ― 活動を共有できる診断・評価ツールとしてどう使うか ―	International Classification of Functioning, Disability and Healthをリハビリテーション診療で活用するには ― 活動を共有できる診断・評価ツールとしてどう使うか ―	向野　雅彦	○
16:45～17:45	5	教育講演18	急性期リハビリテーションの基本とICUでの応用 ―多職種連携とリハビリテーション医の役割―	急性期リハビリテーション医療の基本とICUでの応用 ―多職種連携とリハビリテーション科医の役割―	山内　克哉	○
16:45～17:45	6	挑・超　あすなろ講演8		意識障害のリハビリテーション治療の挑戦	和田　義敬	○
16:45～17:45	7	医師＆専門職　調うセミナー8		装具を使用する脳卒中片麻痺者に対する行うべき支援とは ―装具支援格差は入院中から始まっていた―	久米　亮一	○

2026年10月31日（土）

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
8:30～10:00	2	挑・超・調　企画シンポジウム12	保険外リハビリテーションの挑・超・調　　医師とセラピストの関係	医師と理学療法士の協働による攻めの予防医療と予防・健康増進	佐々木　嘉光	○
				療法士における保険外リハビリテーションとの連携 ―医療機関の理学療法士の立場から―	髙橋　忠志	
				大学病院内の自由診療におけるリハビリテーション科医師の役割	川上　途行	
				大学附属自由診療クリニックにおける臨床の実際	森　直樹	
8:30～10:00	3	挑・超・調　企画シンポジウム14	痙縮治療への挑・超・調	ボツリヌス治療、装具療法によるSMDの治療戦略	勝谷　将史	○
				痙縮治療への挑・超・調 -ボツリヌス療法とITB療法による新たな治療戦略-	竹林　成典	
				拡散型体外圧力波と痙縮	中村　潤二	
				痙縮治療において作業療法士が果たす役割	唐渡　弘起	
8:30～9:30	1	特別講演9		在宅で育つ医療的ケア児の挑・超・調 ― 家族とともにあゆむ医療と支援 ―	中村　知夫	○
8:30～9:30	4	教育講演19		脊髄損傷の摂食嚥下障害　― 病態理解から新規治療戦略まで ―	山本　五弥子	○
8:30～9:30	5	教育講演24		歩行障害に対する新しいリハビリテーション治療	藤原　俊之	○
8:30～9:30	6	挑・超　あすなろ講演9		臨床の気づきから始まった挑戦：リハビリテーション診療におけるカルニチン欠乏症	上野　真	○
8:30～9:30	7	医師＆専門職　調うセミナー9		PT・OT・STのキャリアは“創る時代”へ ～経営視点で、組織を動かし、未来を切り拓くセラピストへ ～	京藤　聡弘	○
9:40～10:40	1	特別講演10		月を目指す医学、地域を支える医学 ～宇宙医学運用と生活期リハビリテーション医療が拓く未来～	速水　聰	○
9:40～10:40	4	教育講演20		運動器疾患に対するリハビリテーション医療 ー機能回復から活動・参加へー	宮本　健史	×
9:40～10:40	5	教育講演25		ケガを防ぎ、最高のパフォーマンスへ ― サッカー現場におけるメディカルサポートの実践 ―	池田　浩	×
9:40～10:40	6	挑・超　あすなろ講演10		急性期・回復期から生活期へ：持続可能な医療・介護システムの実現に向けて	石田　由佳子	○
9:40～10:40	7	医師＆専門職　調うセミナー10		最先端テクノロジーを脳卒中後上肢運動障害のリハビリテーション医療にいかに活かすのか	竹林　崇	○
10:20～11:50	2	挑・超・調　企画シンポジウム13	パラスポーツの挑・超・調	理学療法士という資格をいかしたパラスポーツへの関わり方	永盛　雅子	○
				パラスポーツ参加と継続の難しさと必要な支援について ～パラスポーツを日常的に行う一当事者の立場から～	高安　薫実	
				転んでも大丈夫・スポーツ用義肢製作の35年	臼井　二美男	
10:20～11:50	3	合同シンポジウム（日本集中治療医学会）6	重症患者のリハビリテーションガイドラインJ-Recip 2027	日本版重症患者リハビリテーション診療ガイドラインJ-ReCIP 2027 理学療法士の立場から	對東　俊介	○
				重症患者のリハビリテーションガイドラインJ-ReCIP 2027 言語聴覚士の立場から	兼岡　麻子	
				集中治療領域における認知機能障害へのリハビリテーション治療： J-ReCIP 2027が示す新たな指針	児島　範明	
				重症患者リハビリテーション医療における家族参加の意義と展望	松石　雄二朗	
				集中治療医の立場から見たJ-ReCIP 2027	中野　秀比古	
10:50～11:50	1	特別講演11		次世代につなぐリハビリテーション医学教育 －学びの体系化と人材教育－	久保　俊一	○
10:50～11:50	4	教育講演21		疾患ではなく疾患患者を良くするリハビリテーション治療	西村　行秀	○
10:50～11:50	5	教育講演26		救命から機能回復へ！その先にあるもの ― 脳卒中カテーテル治療とリハビリテーション医療の連携 ―	作田　健一	○
10:50～11:50	7	医師＆専門職　調うセミナー11		障害歩行の特徴分析：追尾型歩行計測システムによって得た各種歩行障害データの集約解析	河島　則天	○
12:00～13:00	1	ランチョンセミナー7		痙縮治療におけるボツリヌス療法の意義と投与筋の優先順位 ～活動と運動学習の観点から～	佐々木　信幸	×
12:00～13:00	2	ランチョンセミナー8		手指リハビリテーション支援ロボットが拓く上肢治療の新時代	内山　侑紀	○
12:00～13:00	2	ランチョンセミナー8			竹林　崇	
12:00～13:00	4	ランチョンセミナー9		COPD患者の呼吸リハビリテーションにおける漢方の役割 ～補中益気湯の併用効果～	濱田　泰伸	×
12:00～13:00	5	ランチョンセミナー10		AIが拓くリハビリテーション予後予測の新たな可能性	白坂　智英	○
				リハビリテーション医療の支援システムとAI予測分析ツールの掛け合わせがもたらす現場変革	小野　圭介	
13:10～14:10	1	文化講演3		AI・ロボット時代における『生きる力』の支え方 ― リハビリテーション医学とヒューニング学が拓く未来 ―	伊藤　麻衣子	○
13:10～14:10	4	教育講演22		SpasticityとSpastic movement disorderの病態と治療戦略	山口　智史	○
13:10～14:10	5	教育講演27		誤嚥を防ぐ、その先へ ― “最後まで食べる幸せ”を支える摂食嚥下リハビリテーション ―	井口　はるひ	○
13:10～14:10	7	医師＆専門職　調うセミナー12		生活行為としての自動車運転を支える ～運転再開・運転中断・地域移動支援～	澤田　辰徳	○

時間	会場	種別	セッションテーマ	演題名	演者	オンデマンド単位取得
13:10～14:40	2	合同シンポジウム（社会保険委員会）5	令和8年度リハビリテーション診療報酬改定の影響を読み解く ― 急性期・回復期・生活期の視点から ―	令和8年度リハビリテーション診療報酬改定の影響に関する会員アンケート調査の結果報告(速報)	土井　あかね	○
				急性期リハビリテーション診療への影響 ―特に急性期加算について	羽田　康司	
				回復期リハビリテーション病棟への影響 特に実績指数の見直しについて	杉原　勝宣	
				生活期リハビリテーション医療への影響 ― 外来診療の位置づけと介護保険との連携 ―	近藤　国嗣	
				リハビリテーション診療報酬を適正に算定するための基本原則	平泉　裕	
13:10～14:40	3	合同シンポジウム（日本生活期リハビリテーション医学会）7	生活期の視点が変える，急性期・回復期リハビリテーション医療・支援 ―生活期がつなぐ急性期・回復期―	その初期介入は「未来のQOL」に届いているか	森　麻衣子	○
				機能回復から社会復帰への架け橋 ー回復期は，生活につなげられているかー	菅原　英和	
				生活期リハビリテーション医療が求める各期の連携と主体性を軸とした一貫した支援の在り方	和田　真一	
				地域を元気にするリハビリテーション医学～音楽・アート・農～	新藤　悠子	
				装具難民を生み出さないための急性期・回復期リハビリテーションの役割	勝谷　将史	
13:10～14:40	8	合同シンポジウム（RJN合同シンポジウム）8	くらしを紡ぐリハビリテーション科医師の役割	回復期退院後のリハビリテーション医療	永田　智子	○
				～家族と考える高齢者の暮らし～地域をつなぐ医師ネットワークの構築～	豊岡　志保	
				急性期病院で考えるくらし	尾﨑　麻希	
				小児のリハビリテーション医療（専門施設からみる小児のくらし）	平岩　文子	
				在宅療養支援診療所のリハビリテーション診療 ―移行期から維持期へという考え方―	瀬田　拓	
14:20～15:20	4	教育講演23		その嚥下障害，手術で変わるのか ― 摂食嚥下障害に対する外科的治療の適応判断 ―	木村　百合香	○
14:20～15:20	5	教育講演28		地域格差に挑み、医療の距離を超える ～遠隔リハビリテーションの現在と未来～	大田　哲生	○
14:20～15:20	7	医師＆専門職　調うセミナー13		子どもの発達を～感覚～から紐解く	高橋　香代子	○
14:20～15:30	1	ジョイント講演	至誠一貫のその先へ ―第10回秋から第64回春，そして第11回秋へ―	至誠一貫のその先へ ―第64回学術集会で伝えたいこと―	津田　英一	○
				Welcome to the New Era of Rehabilitation Medicine リハビリテーション医学の新時代へようこそ	角田　亘	